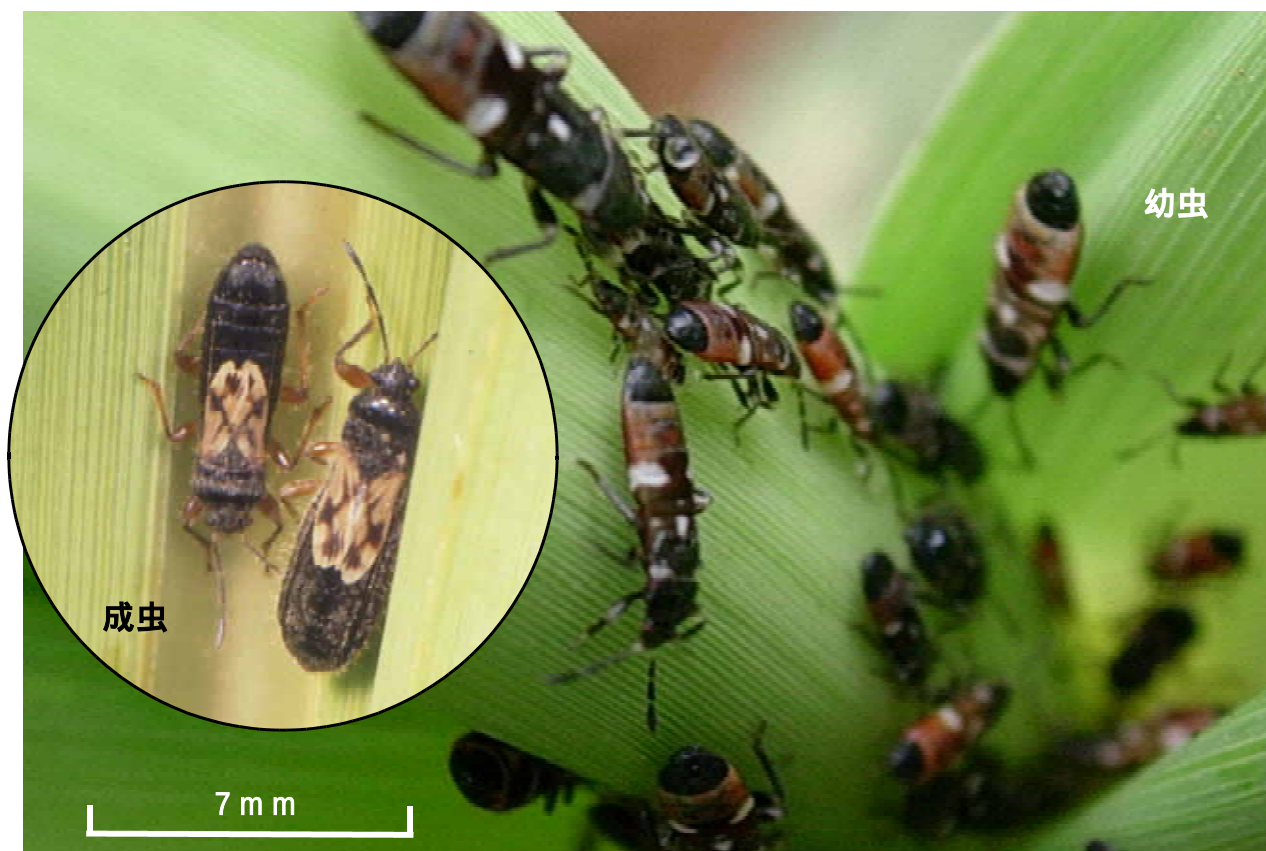


平成17年度病害虫発生予報第5号(8月予報)

今月のトピックス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

カンシャコバナナガカメムシ(ガイダー) *Cavelerius saccharivorus* (Okajima, 1922)



生態と被害

本種は、さとうきびの葉鞘もしくは未展開葉部で柔らかい葉などを吸汁・加害し、被害がひどい場合は葉全体が黄化する。年に3回の発生を重ね、成虫や卵で越冬する。

成虫には翅の短い型(短翅型)と長い型(長翅型)があり、長翅型は高温・長日・高密度条件下で出現し、新たな生息場所に移動するタイプである。

防除は第1世代の若齢幼虫期(4～5月上旬)に薬剤散布を行うと効果的であるが、虫密度が要防除密度(主茎当り20頭)以上の場合に行うのが望ましい。

予報の見方

発生予察情報は、前月の調査に基づき発生程度が「並」以上の病害虫を中心に掲載しています。「やや少」以下の病害虫については通常掲載していません。

「発生の程度」は平年との比較を示しています。そのため毎年その月で高い数値が続いた場合にはその月の「発生の程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にして下さい。

平成17年7月29日

沖縄県病害虫防除所